

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュあんじょう3		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮を行っており、定期的にSNSを用いて活動報告を行っている	その日の出来事や気になる点などを送迎時やメッセージでやりとりしている。外国籍の方には翻訳アプリを使用して伝達できるようにしている。	職員間で情報共有をこまめに行い、保護者様に伝達事項の漏れがないように努める。
2	理学療法士による専門的な視点からの評価とアプローチ、助言を受けることができる	自由遊びの時間では極力身体を動かし、遊びの中で身体機能の向上が図れるように努めている。	ご家庭でも取り組んでいただけるように保護者にも細かくお伝えしていく。
3	支援プログラムが固定されないように工夫しており、支援計画に沿った支援が行われている	週ごとに活動を変えている。それぞれの児童の支援方法についてミーティングで話し合い活動に取り入れている。	長期休暇前などに保護者の方に行ってほしい活動やおでかけの場所などアンケートを取り、保護者様の意見も反映できるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや児童館との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がつかれていない	児童クラブや児童館と交流するための許可や打ち合わせを行う時間を設けることが難しい。	公園に行った際には地域の子どもたちと一緒に遊ぶ機会があるが、近隣住民の方を事業所に招く等のイベントを行い、地域の子どもとの交流の機会を設けていく。
2	家族対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会を行ったり、きょうだい向けのイベント開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援ができていない	懇親会を開催した際に保護者様の方を含めて研修を行ったこともあるが、研修内容が就労支援の内容で低学年の利用児が多いため参加される方が少なかった。	保護者様の方が参加しやすい日程で保護者向けの研修や懇親会を行うとともにきょうだい児も参加できるようなイベントを企画していく。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアル等が保護者に十分に周知・説明できていない	契約の際にマニュアルについて周知し、説明を行っているが細かいところまでお伝えできていない。	契約の際にマニュアルについて周知し、説明を行っているが細かいところまでお伝えできていない。